

学校マスコミが絶対教えない

首里城の歴史

～首里城を救った男たちのドラマ～

【昼の部】

令和元年 **12月18** 日(水) 14:00～
研修室2

◎場所：
IKE Biz としま産業振興プラザ

【夜の部】

令和元年 **12月18** 日(水) 18:30～
研修室2

3F 男女平等推進センター (旧勤労福祉会館)

◎会場分担金+資料代=1,500円

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム

理事長 仲村覚



自治基本条例の廃止を目指した石垣市議会の与党は、多数を確保しながら内部をまとめ切れず、廃止への支持も広がらなかつた。自民党系の9人は結束したもの、公明会派、未来会派からそれそれ1人が野党に同調した。今後も市政の重要な問題で結束が崩れる可能性は否定できず、中山義隆市長は議会運営に不安を感じた形だ。

公明の石垣達也氏は、当初から同条例の廃止ではなく見直しを主張し、

自治基本条例

与党に誤算 支持広がらず

廃止条例、2氏が野党に同調

廃止条例に反対する姿勢を明確にしていた。

議後には「シナリオ」を出し、同条例の「市民」の定義に疑義を示した上で

一度制定された条例は改廃に関しては十分な議論や審議がなされるべきである。

き市民の定義をはじめ、

め、多くの市民の理解を得ることが大切。市民の権利が政争の具になつて

はならない」と訴えた。

条例に代わる新たな条例をつくることが廃止の条件」と明言。与党内で新たな条例を制定する動きがないことに不満を募らせていた。

与党にとつて、石垣、箕底氏が退席を選択せず、明確に反対を表明した」とが誤算だつたと言える。

ただ、未来からは後上里厚司氏が廃止条例に賛成に回り、箕底氏とは対応が割れた。

与党のもう一つの誤算は、野党で唯一の保守系

である砂川利勝氏が、革
新系野党と歩調を合わせ
て廃止に反対したこと
だ。与党は当初、砂川氏
について「こちらにつく」
と票読みしていた。



首里城を自己決定権獲得闘争の材料として使い始めた

年(令和元年)11月10日 日曜日 1版 総合 (2)



親川 志奈子 氏 (琉球民族独立研究会共同代表)

「日本の中の沖縄」を懸念

首里城再建

見方

▷2◁

見方

前記如き 世界遺産としての
の登録がその強制分だけであ
うたとしても、地盤に検査を

西 一連の失敗の反省を踏まえ、(歴史)を大躍進に返す(奉還)をめざさない。明治政府は、

その所有は中興の人
員会は同じく日本政府に、
由権約の國際的な基準を中
々に遵従すべきだと考える。

つまり、国際法に基づけば、
首謀の再建は、文化的な權
利の侵害で、中止すべき。



島袋 純氏（琉球大教授）

沖繩へ所有権返還必要

いつたん大蔵に返された土田の「所有權を整理し」多くの領主に所有權を認定して、多くは残された多くの土地を領有地とした。

再建は国際法に基づく権利

「所有権移転も議論」
首里城再建知事、国との協議意欲

首里城再建知事、国との協議意欲

五城デ二一知事は15日の
朝記者会見で、全焼した
畠城の再建について「首
城はウチナーンチュのア
ナンティティイだ。國に
任せきりにするのではな
く、「目に見える形で（再建
）参画でき」形をつくり
たい」と述べた。そ
の上で、畠城の所有権に
ついて「國が所有者で、國
の予算で復元してきたが、

め、国と協議を進めていく」と強調。「県民のわななくやアイデンティティーは失われていない。魂を込めるために県がどう取り組むかが大切だ」と述べた。
知事直轄の百里城復興戦略子一ムに問うては「優先事項、復旧・復興のロードマップの作成、国との協力関係の構築、県民会議の設立も想定される。さまざま

な人が首里城の復旧・復興に参画できる取り組みを進みたい」と話した。
首里城再建のために県や那覇市に寄せられた寄付金の用途については「まだ具体的には決まっていない。今後の議論で県が取り組むこと、国が取り組むことが明確になつてくる。早く方針を示せるようにした」と語った。

Digitized by srujanika@gmail.com

考へ、(県へ) 移転するかどうかの議論も必要になつてゐる」と述べ、所有権について今後国と協議する考えを示した。

（2、4、
26面に連続）

高崎市は、この度、市税を活用したクラウドファンディングにこれまで計約5億2300万円、県には約1億6600万円の寄付が寄せられている。

の所有権を持つべきだとの
声が県民から上がっている
ことに対し、玉城知事は多く
の県民の「自分たちの手
でわった一宮城を再建し
たい」という思いを受け止

玉城知事所有権の移転の協議を否定、国主導で復元

玉城知事、首里城めぐる発言訂正 所有権移転「協議考えず」

2019.12.13 13:38 | 政治 | 地方自治

12月13日



沖縄県の玉城デニー知事は13日の記者会見で、焼失した首里城の所有権を国から県に移転することに前向きな自身の発言を訂正し、謝罪した。「言葉足らずで皆さまに誤解を与えてしまったことについては率直におわび申し上げたい」と述べた。

首里城は現在、今回焼失した正殿など主要建築がある城郭内は国営公園、城郭外は県営公園となっている。玉城氏は13日の記者会見で「城郭内にある正殿などは、一義的には国が復元を行う。現段階において所有権移転に関して（国と）協議を行うかどうかについては考えていない」と説明した。

首里城の所有権をめぐり、玉城氏は11月の記者会見で「所有権移転をどうするかということも議論していく必要があるだろうと思う」と発言。後に自身のフェイスブックで「『特に考えていない』と答えればよかつた。言葉は難しいなあ。反省」と書き込んでいた。

重山日報・沖縄本島版



県議会（新里木吉廣氏）は11月、11月定例会の本会議を行い、各派を代表して、仲田重毅氏（自民）、山川典二氏（公）、崎山泰民氏（民民）、社夫・船、宮城・鹿野（公）、島澤裕子氏（公）が質問した。玉城デニー知事は感任以来、石垣市をはじめとする離島にある市町村を訪問したと強調。離島の課題患者の支援については、「離島市町村や住民の要望を踏まえ、状況を踏勘する」と述べた。角渕氏への答弁。

12月4日

代表質問

県議会（新里木吉廣氏）は11月、11月定例会の本会議を行い、各派を代表して、仲田重毅氏（自民）、山川典二氏（公）、崎山泰民氏（民民）、社夫・船、宮城・鹿野（公）、島澤裕子氏（公）が質問した。玉城デニー知事は感任以来、石垣市をはじめとする離島にある市町村を訪問したと強調。離島の課題患者の支援については、「離島市町村や住民の要望を踏まえ、状況を踏勘する」と述べた。角渕氏への答弁。

県、首里城再建計画で

所有権移転、協議なし

県議会（新里木吉廣氏）は11月、11月定例会の本会議を行い、各派を代表して、仲田重毅氏（自民）、山川典二氏（公）、崎山泰民氏（民民）、社夫・船、宮城・鹿野（公）、島澤裕子氏（公）が質問した。玉城デニー知事は感任以来、石垣市をはじめとする離島にある市町村を訪問したと強調。離島の課題患者の支援については、「離島市町村や住民の要望を踏まえ、状況を踏勘する」と述べた。角渕氏への答弁。

玉城デニーは、先般謝意を表し、再建計画を始めたい」と述べた。山川氏は、米軍普天間飛行場の辺野古移設に関する国と県の対応について、「離島を離れて生きる」結果が出た場合、従うのが民主主義の下での知事のあり方だ」と述べた。今後は立ち入り調査を実施する」とした。

11月15日



玉城 デニー
11月15日

コメント9件 シェア6件

いいね! 132

いいね!

コメント

シェアする



一般社団法人
日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

國連 琉球 臨時 政府 加盟承認



而過敏性，並稱為「黃疸性急慢性肝炎」或「乙型肝炎」。黃疸（Hepatitis B - 黃疸性肝炎）：由兩種原因引起的黃疸，即因膽管阻塞而引起的黃疸和因肝臟發炎而引起的黃疸。

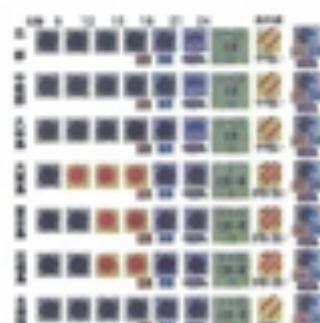
日米軍事
同盟論述

普天間飛行場沒收

新規ライブ in NY



2019年(琉球4年)
号外 4月25日 白曜日



國連加盟祝賀

宮古群島
宮古群島は沖縄本島の東北に位置する島嶼群で、那覇市には「宮古列島支庁」とある。ヨーロッパの國名を冠する「宮古」を由来とするが、その意味は「港の通航を許す場所」である。宮古島は、この意味で「通航を許す場所」である。

各群島臨時政府 歎びの声続々

沖縄群島
南に伸びる島嶼群は、日本最南端の島嶼群といふべきである。島嶼群の北端は、宮古島で、南端は、石垣島である。

卷之三

八重山群島

海外特別政府　　(本編第十一回)

海外特別政府

第10章

公職選挙法（国籍・戸籍・年齢・世代・居住・本人の意識）の階路

關連法案
審議

10 of 10

サンピニ茶
葉

（写真）海上保安庁の護衛艦「かしま」（左）と「くわじら」。右側は、海上保安庁の巡視船「あさひ」。左側の「かしま」は、2010年1月に竣工したばかりの新鋭護衛艦だ。



首里城、美ら海水族館も没収へ

「旧日本国有財産収容法」初の執行検討

性別別別の風景、他の風景の風景)。心が静かになれば「ソラノアリ」(晴れの空の空)。心が少しでも動けば「ソラノハタケ」(晴れの原の原)。心が少しでも熱ければ「ソラノヒカリ」(晴れの光の光)。心が少しでも冷めれば「ソラノクマツ」(晴れの松の松)。心が少しでも寂れれば「ソラノカモミ」(晴れのカモミのカモミ)。心が少しでも喜ぶれば「ソラノハナ」(晴れの花の花)。心が少しでも悲むれば「ソラノスル」(晴れの下の下)。心が少しでも怒るれば「ソラノカムイ」(晴れの神の神)。心が少しでも驚くれば「ソラノカツチ」(晴れの狼の狼)。心が少しでも恋するれば「ソラノハコロ」(晴れの心の心)。心が少しでも愛するれば「ソラノハコロ」(晴れの心の心)。心が少しでも想うれば「ソラノハコロ」(晴れの心の心)。



卷之三

中国船舶

近頃の筆は、いわゆる「文部省小説」の範疇に属するが、筆の運びは、必ずしもその範疇に屬するものではない。筆の運びは、必ずしもその範疇に屬するものではない。

「唐破風」という日本式建築

唐破風とは曲線を連ねた形状の破板を屋根付つけたもの。

【首里城】



【東大寺大仏殿】



首里城の瓦は黒かった

ブログ「目からウロコの琉球・沖縄史」
(琉球歴史研究家 上里隆史氏) 参照

<首里城発掘で黒く加工された赤瓦発見>

- ◎ 首里城の大奥に当たる御内原（おうちばる）という地点から、黒く塗られた赤瓦がいくつも見つかった。
- ◎ マンガンという黒色の鉱物がうわぐすり（釉）として塗られていた。

<沖縄の瓦の歴史>

- ◎ 琉球にはもともと赤瓦は存在していなかった。
- ◎ 高麗系瓦やヤマト系瓦など灰色や黒色の瓦しかなく、瓦自体もそれほど一般的ではなかった。
- ◎ 近世（江戸時代）以前は首里城の正殿は瓦ぶきではなく、ヤマト風の板ぶき屋根だった。
- ◎ 18世紀頃になると、琉球でも瓦ぶきの建物がどんどん造られていき、瓦を大量生産しなくてはならなくなり、手間ひまをかけて製造することができなくなった。
- ◎ その結果、丁寧に焼いて造られる灰色や黒色の瓦ではなく、コストのかからない赤瓦がたくさん造られた。
- ◎ 赤瓦は最初からそれを造ろうとして生まれたのではなく、粗製乱造の結果、生まれた。

<赤瓦を黒く塗っていた理由>

- ◎ 灰色・黒色の瓦しかそれまで存在していなかったため、赤瓦は当時の琉球の人々には非常に不恰好で粗悪なものに見えた。
- ◎ 困った人々は赤瓦をわざと黒く塗って、当時の人たちが考える「本来の瓦」のように見せかけたのではないかと考えられる。



初代沖縄開発庁長官 山中貞則

首里城復元期成会葬散る30周年記念誌

「蘇った首里城」発刊を祝す

昭和四十四年十一月、ワシントンにおいての佐藤・ニクソン会談により、昭和四十七年五月に県民の永年の悲願となつて立ち遅れた社会資本の整備を積極的に推進する必要があることから、全国よりも高率の補助を適用して沖縄県民の所得の向上を図ることを目標とした沖縄振興開発特別措置法を制定するため努力をして参りました。

昭和四十五年五月二十二日に、復帰に向けての県民の要望を聴取するため、沖縄に参りましたおり、琉球政府文化財保護委員会(委員長源武雄氏)との懇談会が東急ホテルで持たれました。その時、同委員会より、首里城復元計画の説明を受け、復元についての要請書が手渡されました。私はこの要請に対して、「沖縄は去る大戦で我が国唯一の地上戦場となり、人的損害を被つただけでなく、首里城正殿をはじめ数々の国宝及び多くの文化財が戦災にあい壊滅したことを十分認識している。首里城正殿は沖縄最大の文化遺産であり、また沖縄文化の象徴であった。沖縄は日本のために尊い犠牲になつたのであるから日本国民、日本政府としてその復元に力を貸すのは当然であり十分検討してみたい」とお答え致しました。

同年十一月十九日、佐藤内閣は第一次沖縄復帰対策要綱を発表、その中で首里城復元問題に関して、「沖縄の文化財の重要性にかんがみ、戦災文化財の復元修理保存を推進する」ことを明らかにしました。私が、首里城復元の予算を文部省の文化庁から大蔵省に要請させたところ、大蔵省は「文化財とは形のあるものを整備修復し保存すること」で、首里城正殿は影も形も無いのだから、文化財ではない」との理由で、文化庁の所管ではできないと言う回答がありました。

そこで私は総理府でこれを要求することを役人に指示しましたが、全員反対でありました。『では総理府総務長官たる山中貞則の要求として別途大蔵省に要請する』と言つて予算要求書を提出させました。

そして、歓会門や久慶門、その間の城壁が復元されました。さらに、歴代の沖縄開発庁長官、とりわけ第五代植木光教長官が、熱心にそれを受け止めてくれまして、昭和五十七年に首里城復元の推進のため、自由民主党の政調会の中の沖縄振興委員会に「沖縄戦文化財復元等に関する小委員会」を作り、首里城復元のためのフォローをしてくれました。

南方同胞援会長 大浜信泉

(サンデーおきなわ昭和四十五年十二月五日号より)

完全復元したい首里城

去る五月沖縄を訪れ、ランパート高等弁務官と会食した際、首里城の正殿復元の話が出て、私の意見を求められた。高等弁務官は、歴史的遺産はできるだけ保存すべきものだと前提してウエストポイントの陸軍士官学校の校長時代に、ある建物をたてた際、立木を切りたおす話が出たが、多少位置をかえることによつて木を切らずにすむものなら、そうしたいと主張して当初の計画を変更させたことがある。一本の木でも歴史の所産であるからできるだけ尊重すべきであるとの信念を披瀝され首里城正殿の復元の重要性を説かれたのであつた。この復元事業にアメリカ側も協力する意図があるかどうかは聞かなかつたが、是非実現したいものだと、むろん双手をあげて賛意を表しておいた。

その後沖縄の文化財保護委員長の源武雄氏から、綿密な調査に基づく復元計画と経費の見積りを伺つたが、経費の問題はさておき首里城跡は琉球大学の敷地になつており、校舎が立ち並んでいることが、この計画を進めるうえでの壁になつてている。琉球大学はいずれ移転することが予定されているので、たとえ時間はかかるにしても、欲をいえば正殿ばかりでなく、首里城は沖縄の歴史的遺産の象徴としてその完たき姿に復元したいものである。

首里城は沖縄の歴史的遺産の象徴としてその完たき姿に復元したいものである。



「沖縄戦災文化財復元等に関する小委員会」の委員長の植木光教氏は首里城の整備復元の予算を大蔵省からどの名目でどるかと思案され、一つ妙案が浮かんだ。「沖縄県の復帰二〇周年記念事業として国営公園方式でやれば大きい。」この案を大蔵省に提出した所が記念事業として国営公園方形式でやれた冲縄県には祖国復帰記念して海洋博覧会記念公園が既にできており、今まで首里城公園をつくることは一つの県に二つの国営公園を作ることになり、それは出来ない。そう言う例はないし、それが前例になつたら困る。」といふのが大蔵省の言い分である。

この異議申し入れに植木氏は閉口したが、知恵を働かして考えたあげく、次のかの様なうるとらの級の妙案をおもいつかれた。「**先ず沖縄県には国営沖縄公園**があつて、それが二つの地区に分かれます。一つは日本復帰を記念して首里城公園が、もう一つは海洋博覧会跡地に海洋博覧会記念公園が、どちらも二つの地区に首里城公園があると考へれば良い。これなら地域的にもバランスがとれる。」

この構想のもと沖縄県では昭和六〇年三月に一「首里城公園基本調査委員会」を一設置して「首里杜(すいむい)構想」を同年五月までに策定して、沖縄開発庁はこの計画を申請した。そしてこの案は「沖縄戦災文化財復元等に関する小委員会」の植木光教委員長の元で検討され、同年六月一二日那覇市ハーバービューホテルにおいて「植木構想」として発表された。

首里城復元等首里城公園(仮称)に関する構想

- 一. 沖縄県が五月三一日に策定した首里杜構想に基づきその中核としての「首里城公園基本計画」を高く評価する。この計画の実現は、沖縄県民の悲願であるばかりでなく、日本国民全体の使命である。
- 二. 「首里城公園」を口号国営公園として整備する。(参考)口号公園とは「国家的な記念事業として、又は我が国固有の文化遺産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地」
- 三. 「首里城公園」は、沖縄県の本土復帰二〇周年記念事業として設置する。
- 四. 「首里城公園」は、「海洋博覧会公園」(仮称)のなかに位置づける。

(理由)

首里城は、歴史的にも地方文化の粹をこえた、琉球文化の象徴であり、戦前首里城正殿をはじめ幾多の国宝、文化財が存在し、沖縄県民はもとより、我が国の貴重な国民的文化遺産であった。しかしながら、太平洋戦争において首里城一帯は灰燼に帰し廢墟と化した。「首里城の復元なくしては、沖縄の戦後は終わらない。」と言う沖縄県民の悲願に応え、本土復帰二〇周年に最も相応しい事業として、国により「首里城公園」を整備しようとするものである。首里城復元期成会の30年の歩み従つて、「首里城公園」は、本土復帰直後に開催された沖縄国際海洋博覧会とそれを記念する「海洋博覧会記念公園」を包括して「国営沖縄記念公園」(仮称)の中に位置づけることとす



公園とみどり

主な施策 基本情報 報道発表資料 サイトマップ

主な施策

ホーム > 主な施策 > 国営公園 > 国営公園の制度の概要

国営公園 国営公園の制度の概要

国営公園の種類

国営公園はその設置の趣旨から次の二つの種類に分けられます。
(都市公園法第2条第1項第2号)

- (イ) 一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地。(口に該当するものを除く)(イ号国営公園)
- (ロ) 国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地。(ロ号国営公園)



国営公園の位置



●イ号公園: 一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置 (12ヶ所)

○口号公園: 国家的な記念事業又は我が國固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために設置 (5ヶ所)

琉球国の飢饉と首里城再建を支援した島津吉貴

【球陽の記録】

薩州太守、材木を寄賜して、以て宮殿の修造を補ふ。

先年、王城回禄し、特に宮殿を修造せんとす。而して材木欠乏す。今、疏文を具し、薩州に求買す。是れに由りて、薩州太守吉貴公、材木壱万九千五百二十五本を寄賜して、以て禁城宮殿の修造を補ふ。

(意訳) 去年、王城が火災で消失し、まさに宮殿を修繕しようとするが、材木が足りない。薩摩に買い求める。これにより薩摩藩主、吉貴公は、材木1万9525本を琉球国に寄賜し、宮殿修繕の助けとした。

薩州の太守、白銀を発賜して饑ゑたる民人を済ふ。

旧年の夏秋、颶颶七次あり。十月に至りて、颶風最も暴し、國、大いに饑饉を致す。王、即ち倉庫を發し、周く人民を済ふ。然れども、春に入り、饑甚だしく、民已に餓殍す。遂に其の事、薩州に聞ゆ。是れに由りて、薩州太守吉貴公、白銀二万両を寄賜して、以て本国の餓口を賑濟せしむ。

(意訳) 夏から秋にかけて台風が7度にわたりやってきた。特に10月の台風は激しかった。国を飢饉が襲ったのだ。そのような中、11月25日午前2時。首里城が紅蓮(ぐれん)の炎に包まれた。この火災で南殿、北殿とともに跡形もなく灰になってしまったのだ。王は人民を救済するために蔵の米を放出するが、それでも足りず、3200人の餓死者を出してしまった。王府は薩摩の在番奉行の協力を得て、救援米の支援を要請するため飛船を出した。薩摩藩主島津吉貴が琉球に救援米3千石を貸与。続いて銀200貫を送り、続いて白銀2万両を送った。

【江戸上り】

回次	年代 <u>西暦(干支、中国元号、和暦)</u>	国王	將軍	目的	正使	副使	派遣人数
7	1710年 (庚寅、康熙49年、宝永7年)	尚益	徳川家宣	慶賀使	美里王子朝頃(尚紀)	富盛親方盛富(翁自道)	168人
				謝恩使	豊見城王子朝匡(尚祐)	与座親方安好(毛文傑)	
8	1714年 (甲午、康熙53年、正徳4年)	尚敬	徳川家継	慶賀使	与那城王子朝直(尚監)	知念親方朝上(向保嗣)	
				謝恩使	金武王子朝祐(尚永恭)	勝連親方盛祐(毛応鳳)	

江戸上りの与えた影響→新井白石:「南島史」、玉城朝薰:「組踊」

1709年の琉球は国難ともいえる不幸の連續だった。病床にあつた尚貞王のために壇を設けて、除厄祈福のために経を七昼夜唱えたが、七月十三日に亡くなり、位四十一年の長期政権が終わりを告げた。琉球は毎年のように、台風や干ばつに苦しんできているが、この年はとくにひどかつた。台風はしばしば襲ってきて、それは苦夏から秋にかけて七次に及び、とくに十月の台風はもつとも激しいものであつた。干ばつも深刻化した。田野は焼けたようになり、穀物類は皆、枯れ果てた。新穀は取らず、蓄えの穀物も底を突いた。民人は食を失い、山の草を採り、木皮を剥いで、日々の飢えをしのぐありさまになつた、と『球陽』は記しています。

そのように飢饉が深刻化していく中、十一月十八日、尚益が即位します。ともかく、新王のもと、飢饉対策が進められつつあつたとき、こんどは首里城が、紅蓮の炎に包まれ、炎上してしまうのです。十一月二十五日、丑時といいますから、午前二時前後のことです。再建して三十八年。瓦葺きとなつて、威容を誇ってきた首里城は、南殿、北殿とともに、跡形もなく灰になつてしまつたのです。

人々は飢え、餓死者も続出していきます。年末になると、山の食草・海の食藻類もなくなり、道端に飢え死にする者、數えれば、三千百九十九人。翌年の春、盜賊は四方にあらわれ、治安は乱れ、士民は節を失い、ひそかに人家に押し入つては器物を盗み、また道にひそんで通行人の衣食を奪うという、浅ましいありさまとなつた……と、『球陽』は記しています。世にいう「丑年の大飢饉」です。

十三年前も同様な大飢饉がありました。「子年の飢饉」で、このときも大干ばつで食が尽き、疫病がまんえんして餓死者が続出したのでした。それをしのぐ惨状でした。それもこんどは首里城まで焼け落ちています。しかし、首里城をどうするかという前に、人民は飢え、餓死者はふくらんでいきます。首里城、どころではありません。王府は各所に役人を派遣して穀物を集め、また、薩摩在番奉行の協力を得て、道の島々(奄美諸島)、薩摩に飛舟(飛脚舟)を出して、救援米を求めていきます。薩摩はとりあえず、米三千石を琉球に貸与、また銀二百貫を送り、続いて白銀二万両が送られてきました。(真琉球王統史十一)

首里城の再建も進んでいました。これは去年十月、向鳳彩(今帰仁)按司朝季を総奉行として着工したのです。木材が不足して薩摩に支援を要請、薩摩からは、杉や檜など一万九千五百二十五本が送られてきました。



VIEW OF FORMER KING'S CASTLE AT SHURI.
(行宮跡スルヒサア)





④

首里城正殿 大正14年国宝に指定された頃。基壇下に「特別保護建造物」の立札が見える。



貴重

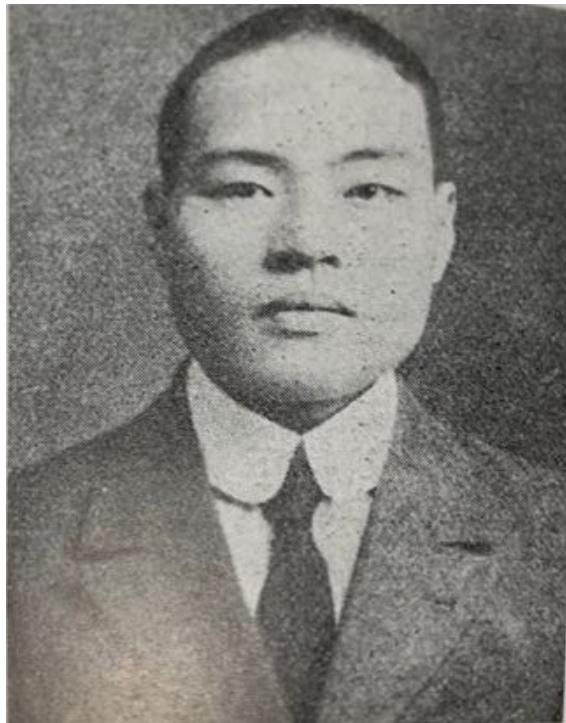
焼失前の首里城の姿
戦争時の空襲映像公開

1945年4月下旬～5月上旬頃の映像



大正13年の首里城の取り壊しの危機を救った二人の恩人

鎌倉芳太郎



鎌倉が遺した写真なくして首里城再建は困難だったことはよく言われるが、それ以前にも一度、鎌倉は首里城を守っている。啓明会から補助金をもらって伊東忠太とともに沖縄の調査活動に乗り出した矢先の1923年（大正13年）3月末、鎌倉は当時残っていた首里城正殿が内務省により3日後に取り壊され、沖縄神社になるという新聞記事を見て驚愕し、文字通り伊東のもとに駆けつけた。

伊東忠太



1867～1954（慶應3.10.26～昭和29.4.7）工学博士、日本建築史学の祖。山形県米沢市生まれ。1924年首里城や民家などを調査、琉球建築のすばらしさを評価、首里城正殿の国宝指定に尽力した。





15

正殿背面の台風被害状況（阪谷撮影）。下はその状況を図示した「阪谷資料」



Documents File

伊東忠太 人と作品 1867-1954



1904年(大正3) 不忍宮天皇御門
(東京), 東京大正
博覧会審査(委員)

1905年(大正4) 菊池天皇御見舞
(御内)

1906年(大正5) 初島密像白座(東
京), 熊野神社(御
殿), 大曾根八郎屋
門(東京)*

1907年(大正6) 横山義(大阪), 鹿
児島五重塔(林
屋)*一部のみ実績

1908年(大正7) 日暮香弘香利奉安
式(愛知)*

1909年(大正8) 武藏郡市家安寺塔(東京)【源氏物語と共同設計】大曾
根八郎小畠直樹御門(神奈川)*『前室の御間』

1910年(大正9) 明治神宮(東京), 久米國之助藤被御門-石狩萬-仁王
門(神奈川), 沖縄縣參拜(東京)

1921年(大正10) 有都御園城寺正傳台御門(東京), 平塚東御像台座(東京),
元寇魔通碑(横浜), 板神神社(山形), 菊池天皇御跡碑
(新潟), 清水道橋(東京), 青山墓園通石右春(東京),
浅草区御町河原町(東京)*

1922年(大正11) 上村神社(山形), 紫林寺御戰勝御像右春(神奈川), 聖開
寺文庫(茨城), 西川院御坂天皇行幸通石碑(新潟)

1924年(大正13) 上野大弘, 石燈(東京)*, シャム王宮内 宮室・庭園
(バンコク), 大食群落場(東京)*

1925年(大正14) 同上新七家墓(神奈川), 綾洋神宮(つくら)*御間, 桜園
石右春(横浜)*

1926年(大正15) 同上御跡御墓(神奈川), 平塚東御像(東京), 桃山御跡
家人御堂御門(茨城), 鹿木本石彌造(アラタカ・アマ
サキ), 北牧御櫻御研究所(内閣御室と共同設計)*

1927年(昭和2) 雅樂殿(東京), 大曾根古跡(東京), 朝國御室(京都), 大
曾根八郎屋御別邸(京都), 入道道吉邸(東京), 小堀家
墓(兵庫), 板平真故北條日庸(島根), 東天竺山甘露寺
御堂(愛知)*

1928年(昭和3) 明治神宮北端(東京)*

1929年(昭和4) 飯島ビル内装飾(大阪), 東天竺山御唐舟御子(愛知)*

1930年(昭和5) 葵見光堂(東京), 大曾根八郎屋(東京), 本質堂御
室(愛知)*

1931年(昭和6) 中山近衛寺多賀松(千葉), 東京都復興記念館(東京)
『技術美術と共同設計』

1932年(昭和7) 清野邸-鶴头美嘉(神奈川)

1933年(昭和8) 清野神社招石(東京), 勝跡御跡文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根家墓相幅(神奈川), 大曾根山御
墓(滋賀), 本殿(神奈川), 中嶋御活御御殿(東京), 清
多博士碑(静岡)*『共用御路』

1934年(昭和9) 清野本善寺(東京), 清野家墓相幅(神奈川), 大曾根山御
墓(滋賀), 本殿(神奈川), 中嶋御活御御殿(東京), 清
多博士碑(静岡)*『共用御路』

1935年(昭和10) 明治寺御堂(山形), 清野神社, 大曾根(東京), 明治神宮
御通大蛇御(東京), 白石元治御御通日(静岡), 清野聖
堂(東京)*御間, 可曾喜作御御殿(札幌), 西曾根太郎屋(長野), 清田
御御殿(東京)*

1937年(昭和12) 舞光寺御沙門堂(新潟), 菊持寺大懶堂(神奈川)

1938年(昭和13) 鶴間立家墓(東京), ベルリニ日本大使館御御殿(ベルリン)*

1939年(昭和14) 入道道吉墓(東京), 関野貴樹(新潟)*

1940年(昭和15) 伊東家墓(神奈川), 女子教育免許科(東京)*

1942年(昭和17) 徒歩坊-基(東京), 入道道吉御墓(長野), 菊持寺内
御御堂(新潟)*, 真如此御親王御御律(シンガボーム)*

1. 1901年(明治44) 生き残る建築

2. 1901年(明治44) 生き残る建築

略歴

1867年(慶応3) 水沢鎮座郷町(山形県米沢)に生まれる
1880年(明治3) 明治大学工科大学造業学科入学。同郷学生と共に沢庵為 信を師とする。
1892年(明治5) 明治大学工科大学造業学科卒業。大学院に進学
1893年(明治6) 「須磨寺建廟論」を発表。平安神宮の摂社となり京都に 出仕
1894年(明治7) 「アーチキテクチャ」の本著を譲り其講字を擬定し教 養院學會の西田義徳を主催
1896年(明治9) 内務省古社寺保存會会員
1897年(明治10) 明治大學講師
1899年(明治12) 道立宮社跡東山麻理詔跡
1900年(明治13) 東京帝國大學助教授
1901年(明治14) 工業博士、日本帝國美術地圖監修、建築の部会議長、建築 規範書の考定會に出席
1902年(明治15) アフリ-西米留学に赴く。中国、印度、トルコ、エジプト、 ギリシア、ヨーロッパ各国、アメリカ合衆国などを訪問し、 1905年に帰國
1905年(明治18) 東京帝國大學助教授
1906年(明治19) 講義「建築藝術の發展より見る世界建築の前途」にあ いて「技術主義化主義」を主張
1911年(明治44) 明治大學講師を併任
1912年(明治45) カネソウ・中間に出席
1924年(大正13) 沖縄社社を調査し、那空城正則を昭和保護法施行に推 陳に當る
1925年(大正14) 明治大學講師
1926年(大正15) 東京帝國大學名誉教授。早稲田大学教授
1928年(昭和3) 国宝保存會委員。東京帝國大學講師
1930年(昭和5) 東京帝國博物館(現・東京國立博物館)設計部接審委員
1932年(昭和7) 日本文化藝術授与-イ-ディイに出席
1934年(昭和12) 明治講習会員
1943年(昭和18) 文部省典、日本文化合作設計掛合審委員長
1944年(昭和19) 正志(明治)

主な作品

年	名
1895年(明治8) 平成神宮(京都)「木子通御と共同設計」	
1896年(明治9) 鹿児島御古宮(三重)*	
1899年(明治12) 豊前廟	
1900年(明治13) 自治神宮(台湾)「武廟五合一共同設計」	
1903年(明治16) 伊勢神宮御内三殿(御作御通と共同設計)	
1904年(明治17) 大津太子堂(大連)*	
1905年(明治18) 青森神宮および櫛田御院(宮城)宮木木曾次郎と共同設計	
1906年(明治19) 西本願寺大雄寶殿(大連)*	
1908年(明治21) 両利村像(鹿児島)*	
1909年(明治22) 両利船像(鹿児島)*	
1910年(明治23) 木造神社(アラカツラ・ワシントン)(基本設計)、三吉恭五 郎(神奈川)*	
1911年(明治24) 可憐審課園(静岡)、西村株式會社(大阪)、西本願 寺(西院御院)の庭園*	
1912年(明治25) 青森復健生命保険会社(京都)、東京大学正門(東京)、 再伸寺御御院兩院(京都)「造律於萬と共同設計」、西本願 寺香港布教所(香港)「蘭與孫三郎と共同設計」	
1913年(大正2) 中志郎家墓(東京)	

主な作品

1904年(大正3) 不忍宮天皇御門
(東京), 東京大正
博覧会審査(委員)

1905年(大正4) 菊池天皇御見舞
(御内)

1906年(大正5) 初島密像白座(東
京), 熊野神社(御
殿), 大曾根八郎屋
門(東京)*

1907年(大正6) 横山義(大阪), 鹿
児島五重塔(林
屋)*一部のみ実績

1908年(大正7) 日暮香弘香利奉安
式(愛知)*

1909年(大正8) 武藏郡市家安寺塔(東京)【源氏物語と共同設計】大曾
根八郎小畠直樹御門(神奈川)*『前室の御間』

1910年(大正9) 明治神宮(東京), 久米國之助藤被御門-石狩萬-仁王
門(神奈川), 沖縄縣參拜(東京)

1911年(大正10) 有都御園城寺正傳台御門(東京), 平塚東御像台座(東京),
元寇魔通碑(横浜), 板神神社(山形), 菊池天皇御跡碑
(新潟), 清水道橋(東京), 青山墓園通石右春(東京),
浅草区御町河原町(東京)*

1912年(大正11) 上村神社(山形), 紫林寺御戰勝御像右春(神奈川), 聖開
寺文庫(茨城), 西川院御坂天皇行幸通石碑(新潟)

1913年(大正12) 上野大弘, 石燈(東京)*, シャム王宮内 宮室・庭園
(バンコク), 大食群落場(東京)*

1914年(大正13) 同上新七家墓(神奈川), 綾洋神宮(つくら)*御間, 桜園
石右春(横浜)*

1915年(大正14) 同上御跡御墓(神奈川), 平塚東御像(東京), 桃山御跡
家人御堂御門(茨城), 鹿木本石彌造(アラタカ・アマ
サキ), 北牧御櫻御研究所(内閣御室と共同設計)*

1916年(大正15) 雅樂殿(東京), 大曾根古跡(東京), 朝國御室(京都), 大
曾根八郎屋御別邸(京都), 入道道吉邸(東京), 小堀家
墓(兵庫), 板平真故北條日庸(島根), 東天竺山甘露寺
御堂(愛知)*

1917年(大正16) 同上御御殿(新潟), 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文
多之御(シウジ), 佐置神社獻灯(滋賀), 大曾根山御
墓(滋賀), 本殿(神奈川), 中嶋御活御御殿(東京), 清
多博士碑(静岡)*『共用御路』

1918年(大正17) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1919年(大正18) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1920年(大正19) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1921年(大正20) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1922年(大正21) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1923年(大正22) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1924年(大正23) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1925年(大正24) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1926年(大正25) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1927年(大正26) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1928年(大正27) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1929年(大正28) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1930年(大正29) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1931年(大正30) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1932年(大正31) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1933年(大正32) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1934年(大正33) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1935年(大正34) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1936年(大正35) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1937年(大正36) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1938年(大正37) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1939年(大正38) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1940年(大正39) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1941年(大正40) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1942年(大正41) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1943年(大正42) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1944年(大正43) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1945年(大正44) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1946年(昭和1) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1947年(昭和2) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1948年(昭和3) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1949年(昭和4) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1950年(昭和5) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1951年(昭和6) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1952年(昭和7) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1953年(昭和8) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1954年(昭和9) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1955年(昭和10) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1956年(昭和11) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1957年(昭和12) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1958年(昭和13) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1959年(昭和14) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐置
神社獻灯(滋賀), 大曾根山御墓(滋賀), 本殿(神奈川),
中嶋御活御御殿(東京), 清多博士碑(静岡)*『共用御路』

1960年(昭和15) 清野神社招石(東京), 勝跡御御殿文多之御(シウジ), 佐



さかたにりょうのしん

阪谷良之進 (1883-1941)



やなぎだきくぞう

柳田菊造 (1887-1945)



「重要建造物調査研究を専門とした文部省文部技師。国宝建造物の補修調査に一生を捧げた。首里城正殿昭和の大修理(昭和8・1933年竣工)の際に来県、首里城のみならず県内重要建造物を調査、写真・図面など貴重な資料を残した。首里城修理に関しては社寺修理の第一人者・柳田菊造を沖縄に派遣、柳田の意見をよく聞き、新工法の採用、予算の獲得などに奔走して首里城の救世主にふさわしい働きをした。が、これまでその功績はほとんど知られていないかった。

奈良の宮大工の家系に生まれ、東京築地の工手学校で西洋建築の知識も得ている。文部省建築技師。明治後期、奈良の東大寺大仏殿、唐招提寺などの修理工事、その他、多くの社寺修理に携わり、社寺修理の権威とされた。昭和5年8月、阪谷良之進に登用されて首里城正殿昭和の大修理の工事監督として沖縄に滞在、困難な状況下で正殿の解体修理を完遂した。柳田も阪谷同様、首里城の工事状況、その他の建造物などを収めた貴重な写真(ガラス乾板)を残している。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

関連テーマ

首里城は「誰」のものか

大火で一夜にして失われた首里城正殿は、これまで何度も苦難に見舞われてきた。沖縄戦はもとより、取り壊しの豪き目に遭いかけたこともあった。そのたびに救ってきたのが首里城の本当の価値を知る人たちだった。焼失で聞こえ始めた「首里城は誰のものか」、この問い合わせに対する答えの手がかりが見つかるかもしれない。

沖縄

歴史

文字の大きさ 拡大 標準

首里城の守護者たちが教えてくれる「正しい再建」（抜粋版）

『仲村覚』 2019/12/12

読み下し 12 分

1879年に沖縄県が設置されると、最後の琉球国王だった尚泰は、他の藩主と同じように首里城を明け渡した。その後、09年に首里区（当時）の所有物となつても世間から見向きもされず、11年6月には地震や暴風が相次ぎ、正殿2階の天井が墜落するなど、廃墟にも等しい悲惨な状態をさらした。1923年9月、沖縄県は首里城正殿を取り壊すことを決定し、取り壊し式を24年4月7日に実施することになった。跡地に沖縄県社（沖縄神社）を建立する計画も立案された。

さかのぼること2年半前の21年4月、香川県出身の鎌倉芳太郎が沖縄女子師範学校の美術教師として赴任した。鎌倉は豊かな沖縄文化に惹かれ、2年の滞在で沖縄本島や宮古、八重山をくまなく歩く。そして、沖縄の芸術や文化、宗教に関する写真やスケッチなど大量な記録を残し、沖縄文化研究の第一人者と呼ばれるようになる。

東京に戻った鎌倉は23年3月、小石川にある沖縄県出身者の寮、明正塾を訪れた際、沖縄地元紙の「首里城取り壊し」の記事を見つける。取り壊し式が10日後に迫っていることを知った鎌倉はすぐさま明正塾を飛び出し、本郷の東京帝大に向かった。同大教授で建築家の伊東忠太に面会して、首里城の危機を訴えるためだ。伊東は日本最初の建築史家といわれ、神社建築の第一人者であり、古社寺保存の権威としてその名を轟（とどろ）かせていた。鎌倉の要請を受けた伊東はすぐに内務省神社局長の大海外（おおみはら）重義に中止を要請する。

大海外も伊東の働きかけには逆らえず、沖縄県庁に「首里城並びにその建造物は史跡名勝天然記念物に該当するので取り壊しならぬ」と中止命令を打電した。実際には、取り壊し式を待たずに作業が開始されており、既に瓦が外され始めたところだった。しかし、鎌倉と伊東の情熱と行動に支えられて、首里城は奇跡的にその命を守られたのだ。

1925年、首里城正殿は特別保護建造物、次いで旧国宝に指定され、沖縄神社拝殿として存続する。その後、修繕計画が立てられ、28年2月には昭和の大修理が始まった。

しかし、早くも30年ごろに工程2割で工事資金が底をついてしまい、手詰まり状態に陥った。7月には観測史上3位（当時）の台風が沖縄を襲い、那覇市では最大風速47メートルを記録する。首里城も大きな被害を免れず、工事も中止状態となつた。再び危機に陥った首里城を救つたのが、文部省宗教局の阪谷良之進と同省建築技師の柳田菊蔵である。阪谷から沖縄への派遣の命を受けた柳田は現地到着後、被害状況の調査に入った。

そこで柳田が目にしたのは、屋根が台風で剥がれ、柱もシロアリの餌食にされた悲惨な首里城の姿だった。柳田は状況を手紙で報告するととともに、阪谷に素屋根（すやね）設置の必要性を訴えた。素屋根とは、建物をすっぽり覆う仮設物で、台風による再度の被害を避けられるだけでなく、木材を風雨に晒（さら）すこともないため、劣化や損失を防ぐことができる。最大のメリットは、工事が天候に左右されなくなるため、計画通りに工事を進められることだ。ただその分、高額な予算を必要とする。

阪谷も2月には自ら沖縄まで足を運び、滞在を延長して丹念に視察した。その結果、柳田の主張通り、素屋根を用いた工法でなければ工事は完成できないと確信する。東京に戻った阪谷はすぐさま、工事費増額のために粉骨碎身の努力を始める。それからわずか数日後、柳田に打った電文には「工費は九ハ九〇〇円以内に收ること」とあり、ただし書きに「貴族院議員控室にて決定す」とあった。この予算は当時の首里市にほぼ匹敵する規模であり、文部省が行ったどの修理工事も超える額だった。しかも、台風が首里城を襲う前年の29年3月に国宝保存法が制定されたばかりで、文部省にとっては、この法律に基づいて修理しなければならない文化財が山積みだった。その中には、伊東により世界最古の木造建築物であると確認された法隆寺や、西の丸の櫓（やぐら）の一部が大雨で崩壊して早急な修理が必要だった姫路城があった。文部省は、これらの文化財より首里城の大修理を優先して予算をつけたのだ。

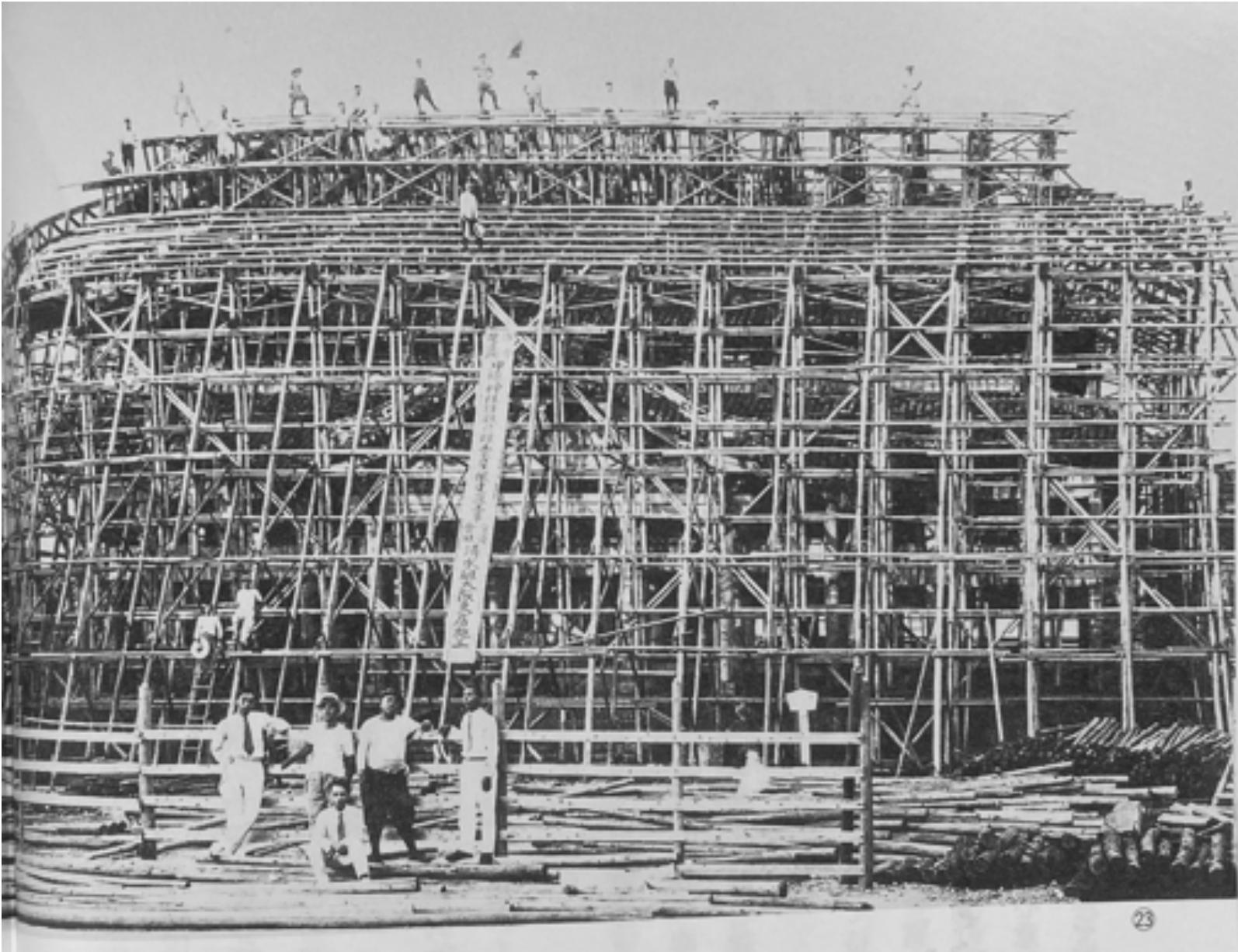
昭和の大修理では、各部材を実測し記録を取った上で解体し、修復してから組み立てるという気の遠くなる作業を繰り返した。それでも現場監督の柳田と文部省で監督指揮した阪谷のもとで、素屋根がかけられた正殿の修復は迅速に進んでいった。そして、再開からわずか1年9ヶ月後の33年9月23日、幾多の困難を乗り越えながらも、一人のけが人を出すことなく完成了。



首里城昭和の大修理の年表(概略)

年月日	出来事
明治30年6月5日	「古社寺保存法」制定。同法による保護を社寺所有に限定、建造物は特別保護建造物とし、「由緒ある古社寺」に限定
昭和44年6月18日	首里城正殿二階部天井墜落(同月十五日の地震と当日の暴風雨による被害)
大正10年4月	鎌倉芳太郎、沖縄女子師範学校教師
大正13年3月28日	伊東忠太、「首里城並びにその建造物は史跡名勝天然記念物に該当するので取り壊し中止」の打電、首里城危機一髪で救われる。
大正13年7月	伊東忠太来沖、首里城の調査研究
昭和3年2月	「首里城正殿」修理工事着手。金七万円、主任・本山沖縄県建築技師
昭和5年7月17日	首里城、暴風により上層背面の瓦約四十坪にわたって墜落
昭和5年8月3日	柳田菊造技部、沖縄着任。七月二十一日付辞令、七月二十八日東京発、八月三日着
昭和5年11月18日	沖縄県学務部長から阪谷へ、素屋根一万二千円の建設費計上の申請
昭和6年2月4日	阪谷良之進、来沖。翌五日から首里城正殿修理工事並びに文化財建造物を視察。守礼門、歓会門、瑞泉門、白銀門、円覚寺など一九点を国宝の第一候補に絞る。
昭和6年12月11日	正殿修理工事再開
昭和7年1月25日	正殿素屋根設置工事開始
昭和7年3月25日	正殿素屋根設置工事完了
昭和8年9月23日	首里城正殿大修理工事竣工





23



阪谷良之進の業績

年代	柳田菊造の業績	
	工事名	所在地
明治四三年	唐招提寺鼓樓修理 (奈良県)	
明治四四年	壬生寺庫裡改築 (京都府)	
明治四五五年	鹿島神宮本殿修理 (茨城県)	
明治四五年	延命寺二階堂修理 (福島県)	
大正二年	高藏寺阿弥陀堂修理 (宮城県)	
大正五年	興禪寺勅使門修理 (長野県)	
大正六年	佐竹寺本堂修理 (茨城県)	
大正七年	寛永寺五重塔修理 (東京)	
大正八年		
大正九年		
大正一〇年		
大正一一年		
大正一一年		
大正一三年		
大正一四年		
大正一五年		
昭和二年		
昭和三年		
昭和二年		
昭和二年		
昭和四年		
昭和五年		
昭和六年		
昭和八年		
昭和一〇年		
昭和一〇年	沖縄神社拝殿 (首里城正殿) 修理 (沖縄県)	
昭和一〇年	白銀堂改築工事設計 (沖縄県糸満市)	
昭和一〇年	萬福寺本堂修理 (島根県)	
昭和一〇年	姫路城西の丸保存工事 (兵庫県)	
昭和一〇年	西宮戎神社本殿 (兵庫県)	
昭和一〇年	東福寺浴室 (京都府)	
昭和一〇年	萬寿寺鐘楼 (京都府)	
昭和一〇年	醍醐寺多寶塔 (京都府)	
昭和一〇年	久世神社本殿 (京都府)	
昭和一〇年	三寶院宸殿及庫裡 (京都府)	
昭和一〇年	妙心寺庫裡 (京都府)	
昭和一〇年	本願寺能舞台 (京都府)	
昭和一〇年	觀智院客殿 (京都府)	
昭和一〇年	許波多神社本殿 (京都府)	
昭和一〇年	藤森神社末社 (京都府)	
昭和一〇年	醍醐寺金堂 (京都府)	
昭和一〇年	沖縄神社拝殿 (首里城正殿) 修理 (沖縄県)	
昭和一〇年	松尾神社本殿拝所 (京都府)	
昭和一〇年	念仏寺本堂 (京都府)	
昭和一〇年	春日神社若宮細殿、御廊神樂所 (奈良県)	
昭和一〇年	石清水八幡宮廻廊 (京都府)	
昭和一〇年	宇太水分神社本殿 (奈良県)	
昭和一〇年	宇治神社本殿 (京都府)	
昭和一〇年	平等院觀音堂 (京都府)	
昭和一〇年	三寶院純淨觀 (京都府)	
昭和一〇年	長岳寺五智堂 (奈良県)	
昭和一〇年	高鴨神社本殿 (奈良県)	
昭和一〇年	法隆寺西院廻廊鐘樓、經樓 (奈良県)	
昭和一〇年	金峯山寺本堂 (奈良県)	
昭和一〇年	佐竹寺本堂 (茨城県)	
昭和一〇年	佐竹寺本堂 (茨城県)	



旧国宝指定建造物（沖縄）一覧表

	所在	名称	種別	指定年月日	創建年代	備考	
1	波上宮	朝鮮鐘	梵鐘	明治41年5月27日 (1908)	956年鋲造	日本最古の朝鮮鐘、戦火滅失	
2		正殿	木造	大正14年4月24日 (1925)	1712年	戦災滅失、1992年復元	
*3	首里城	守礼門	木造	昭和8年1月23日 (1933)	1529年	戦災滅失、1958年復元	
*4		欽会門	門=石造 檼=木造	*	1477年	戦災滅失、1974年10月復元	
*5		瑞泉門	門=石造 檼=木造	*	1470年	戦災滅失、1992年復元	
*6		白銀門	石造	*	尚真王代	戦災滅失	
*7		總門	木造	*	1494年	戦災滅失、1968年復元	
*8	円覚寺	右掖門	石造	*	1494年	戦災滅失、1968年復元	
*9		左掖門	石造	*	1494年	戦災滅失、1968年一部復元	
*10		放生橋	石造	*	1498年	戦災損傷、1967年復旧	
*11		山門	木造	*	1494年	戦災滅失	
*12		仏殿	木造	*	1494年	戦災滅失	
*13		龍潤殿	木造	*	1494年	戦災滅失	
*14		鐘樓	木造	*	1494年	戦災滅失	
*15		獅子窟	木造	*	1494年	戦災滅失	
*16		総門	石造	*	1527年	戦災滅失、1953年復旧	
*17		右掖門	石造	*	1527年	戦災滅失、1953年復旧	
18		左掖門	石造	*	1527年	戦災滅失、1953年復旧	
19		第二門	木造	*	1527年	戦災滅失	
*20	崇元寺	正廟	木造	*	1527年	戦災滅失	
*21		園比屋武御嶽	石門	石造	*	1519年	一部戦災を受け1956年復元
*22		末吉宮	本殿	木造	昭和11年9月18日 (1936)	1456年頃	一部戦災を受け1972年復元
*23		沖宮	本殿	木造	昭和13年7月4日 (1938)	1455年頃	戦災滅失
*24	弁が嶽	石門	石造	昭和13年8月26日	1519年	戦災滅失	

◎ *印は阪谷良之進が国宝指定の第一候補としたもの

◎ 1~21は「古社寺保存法」、3~24は「国宝保存法」による指定

参考資料 『沖縄県史』6／沖縄県立図書館所蔵「阪谷資料」



阪谷良之進への追悼文

伊東忠太

吾等の最も尊敬する我国の国宝建造物を双肩に担い、その調査と保存に身命を捧げられた斯界（しかい）の重鎮阪谷良之進君が卒然として長逝せられたことは洵（まこと）に痛ましくも又悲しき極である。

君は東京美術学校を出られて直後、関野貞（だだし）博士の披導の下に職を古社寺保存の事業に奉じ、奈良県技師、京都府技師に歴任して終に文部技師に任せられ、身を終る迄一意専心公務の為に奮闘された経歴は斯界（しかい）の均しく具瞻（ぐせん）する所である。

君は温良勤厚の資を以てして、しかも極めて堅い信念と頗る強い意志を持て居られ、同時に又篤い情誼（じょうぎ）を持って居られた。殊に職務に忠実であり勤勉であられたが、それは君の責任感の厳正なるが為である。君は一面に於て努力して学問の研鑽に精進し、他面に於て技術の練磨に熱中し、遂に倦むことを知られなかつた。君は又一面に於て趣味の人であり、豊富なる余技や娯楽にも親しまれたが、これ即ち君の神氣転換の妙剤でもあつた。

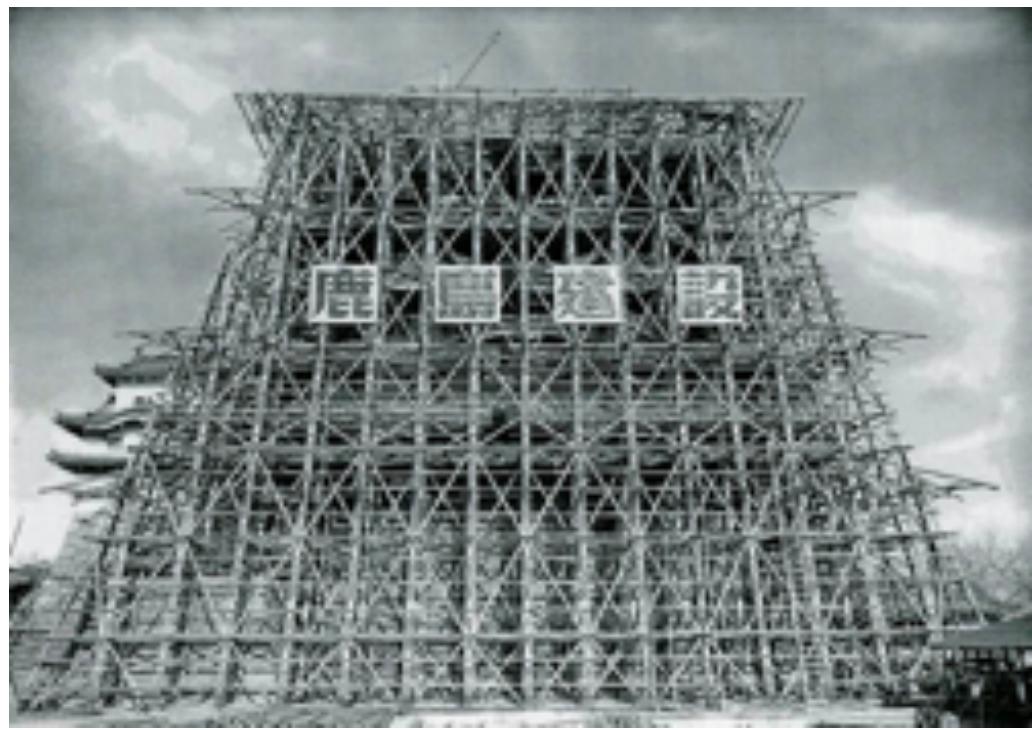
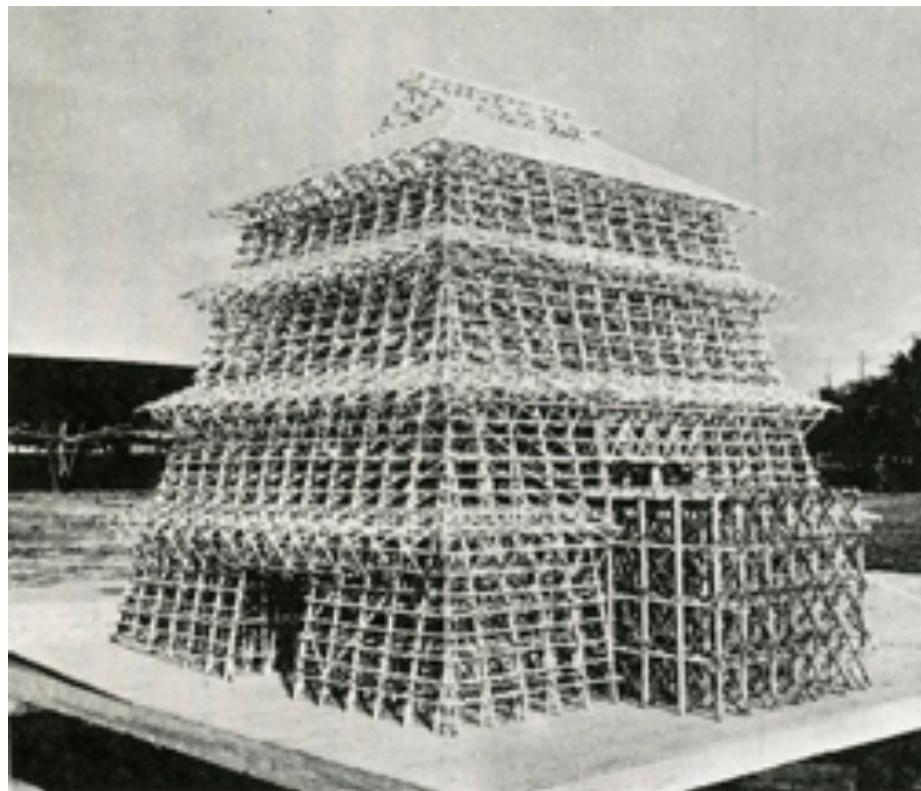
君の不斷の過労が健康に禍したるや否は知らざるも、君は昭和十年病を得られたが暮年（きねん）にして快復された様である。併し病根は深く膏肓に潜入して居たのである。爾來健康往日の如くならざるかに見えた。而も君の忍耐と努力は、朝はまだきに出て、夜は更たけて帰り、酷寒（こつかん）も烈暑も厭われなかつた。私は昨年の春より君の健康の勝れざるを感じずるに至り、幾度となく切に静養を勧めたるも、君はその精神の力を以て病魔を克服すべしとの鞏固（きょうこ）なる信念を以て容易に私の勧告に応諾せられなかつた。昨年まだ秋風の立ちそめぬ頃より君漸く静養の必要を感じられ、身は鎌倉に起臥（きが）されつゝも、心は東京の空に馳せて、片時も公務の事を忘れらず、為めに若干の無理を強行せられしこもありしと思わる。斯くて本年正月に入りて君の宿痾（しゆくあ）は俄然革（あらた）まり、正月四日逝去の悲報に接して私は万感に胸塞がり、言う所を知らぬのであつた。

君は学徳一世に高き朗盧（ろうろ）先生を直系の祖父とし、政治経済界の最高権威芳郎男爵を叔父とせらる。その系統を享けられた日本古建築の良之進君である。天若し君に仮すに寿を以てせば、必ずや大成せらるに庶幾かるべきに、嗟、未だ還暦にだも達せられずして長逝せられたるは何たる恨事ぞや。遮莫（さもあらばあれ）君は我国古建築の調査及保存事業の為に一身を犠牲に供し、國家の為に日本古文化闡明（せんめい）と古芸術宣揚の具体的資料を集成され、同時に多数の有能なる後進を養育されたので、昨年末君が病の故を以て職を辞せらるるや、国家は君の勲功を勒して最高の特典を与えられた。君また以て瞑すべきであろう。

嗚呼、吾等は今や君と永久に別れ、君が常に諄々（じゅんじゅん）として専門的問題に就て侃諤（かんがく）の論を吐き、孜々（しげ）として山積の事務を処理せらるる真剣の態度、時に怡々（いい）として歎談に劳苦を忘れられられた温容は、復見ることは出来ぬが、吾等の脳裡に刻（こく）せられた印象は髣髴（ほうふつ）として永く消滅しないのである。（了）



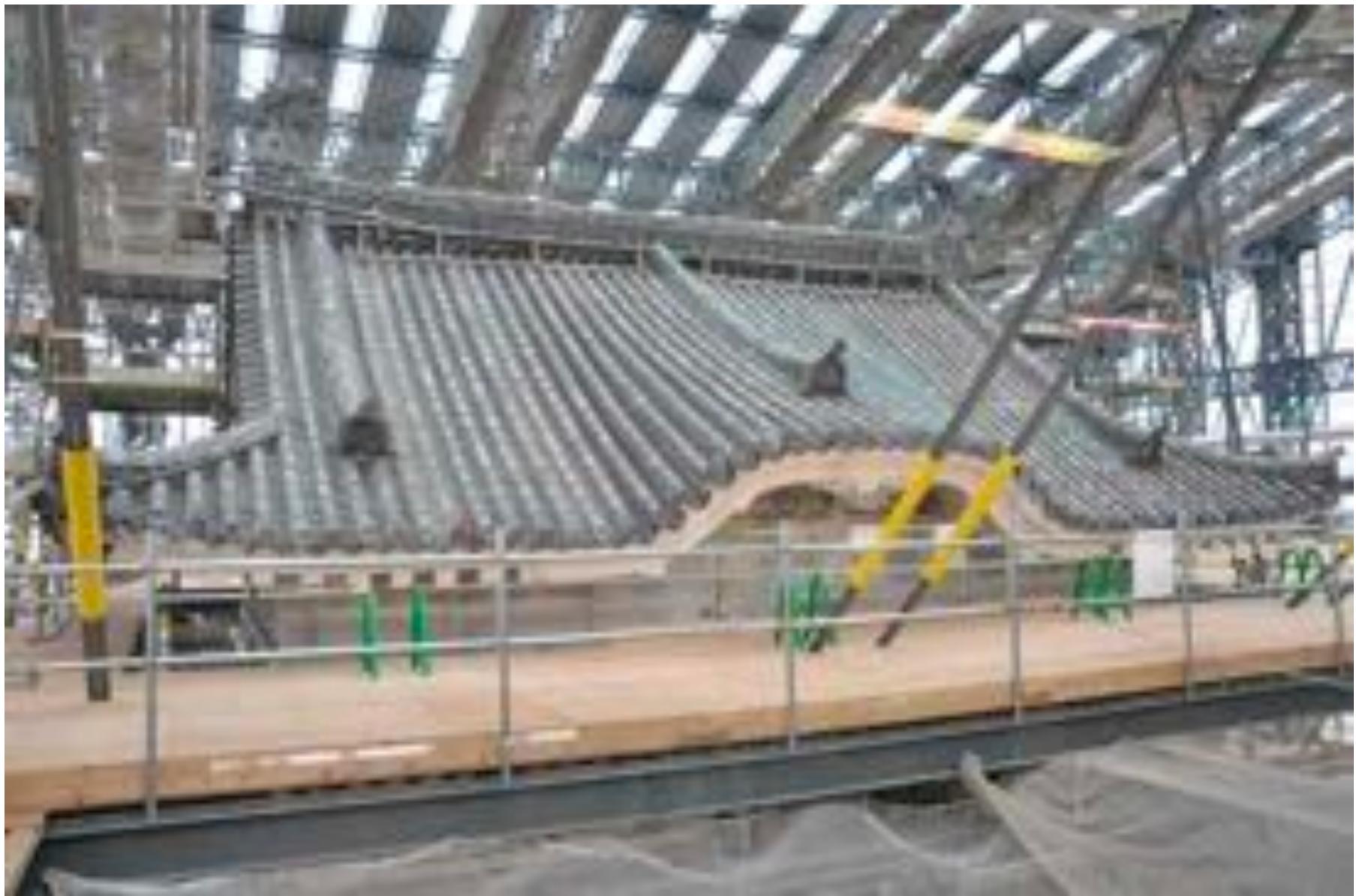
姫路城の復元工事の素屋根



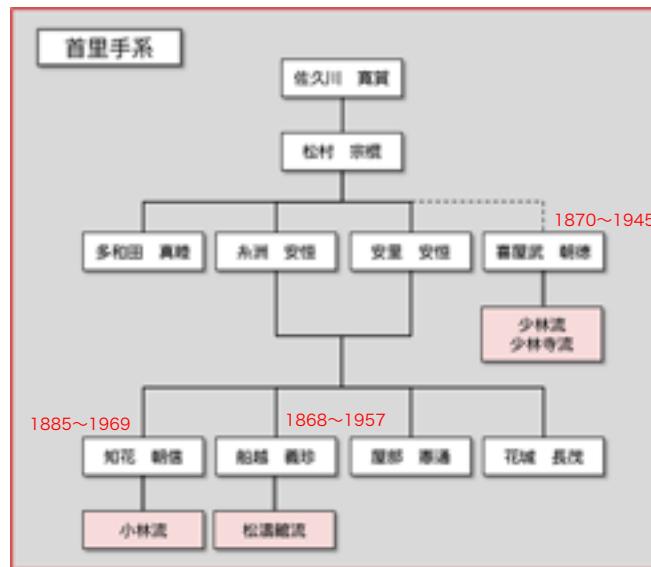
2010年12月



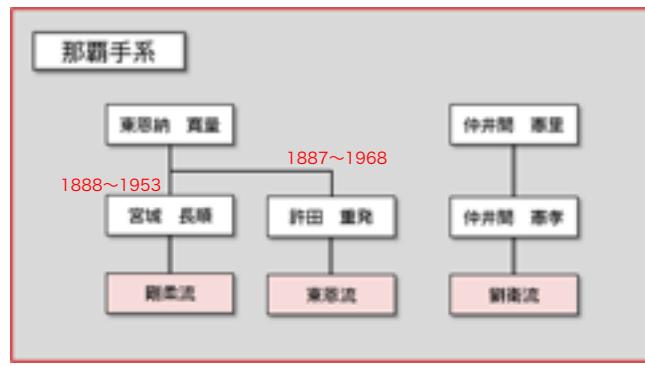
姫路城 平成の大修理中(素屋根内部から見る天守閣)



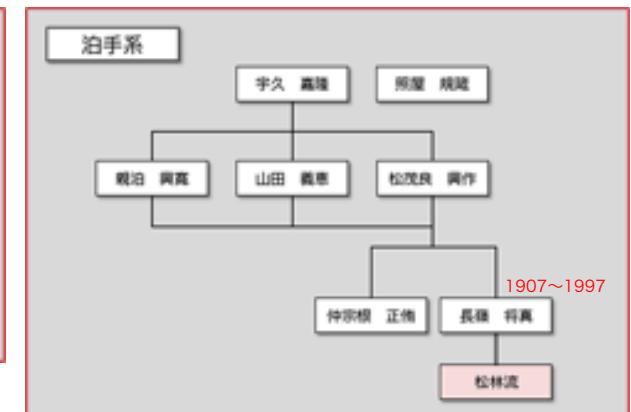
沖縄空手の流派



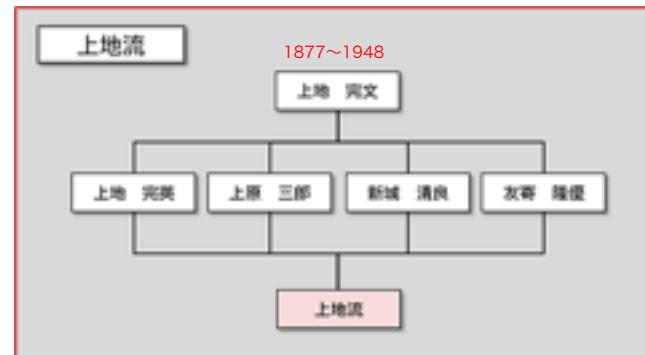
首里手系は政治の中心であった首里の「士（サムレー）」たちによって受け継がれた武術です。佐久川寛賀から松村宗棍へと受け継がれ、宗棍から糸洲安恒、安里安恒、多和田真睦、喜屋武朝徳へと継承されました。その系譜は小林流の知花朝信、松濤館流の船越（富名腰）義珍、屋部憲通、花城長茂、徳田安文、城間真繁などへ受け継がれました。喜屋武朝徳系から少林流・少林寺流が派生しました。



那覇は海外への玄関口として古くから開けた商業都市でした。福州との関係も深く、久米村（クニンダ）は福州を中心とした中国系渡来人の居住区でした。このような環境下で生れたのが那覇手です。その系譜は東恩納寛量から剛柔流開祖宮城長嶺へと受け継がれました。これとは別に仲井間家に代々伝承された劉衛流があります。



泊手系は宇久嘉隆と照屋規範が元祖と言われています。嘉隆と規範から親泊興寛、山田義恵、松茂良興作など泊地方の「士（サムレー）」たちによって受け継がれた武術で、松茂良興作に代表されます。その系譜から長嶺将真を開祖とする松林流が派生しました。また、少林流系に多大な影響を与えた喜屋武朝徳も泊手を継承しています。



開祖は上地完文です。1909（明治42）年に、13年の福州での修業及び指導者として活躍したのち帰国しました。1926（大正15）年から和歌山での指導を皮切りに、多くの門弟を育成しました。「サンチング」を主とした厳しい鍛錬法で知られています。子息の完英は完文が伝えた三つの型と鍛錬法に、完文の高弟たちと五つの型を考案し上地流空手を完成させました。



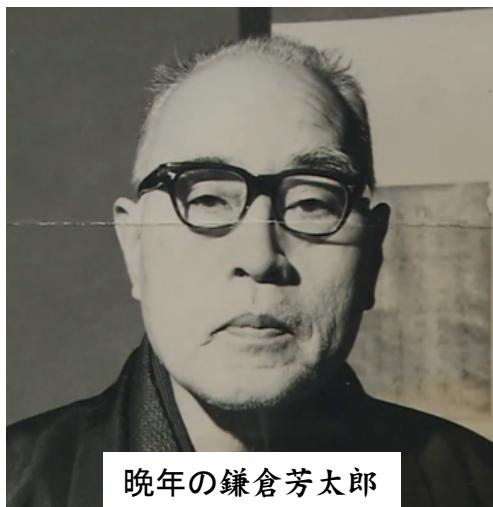
首里城正殿復興再現の意義 鎌倉芳太郎

「沖縄の文化財」昭和四十六年六月三十日第二号

これは沖縄百万人のためではない。また日本人一億人のためでもない。それは人類が地球上に顕現した偉大なる文化の遺芳として後世に伝えなければならない国際的使命感に基づくものである。ナイルのダムによつて水底に没しならぬようとした古代エジプトの王墓の文化遺構は、人類文化と尊重する世界各國の人々の協力によつて、これをその上方地上に移転することに成功した。これは一地域の経済や損得の問題とは全く別箇の立場でエジプトの古代文化が地上に保存せられた例証である。今次大戦においても、本土の京都や奈良の古文化財は、アメリカの有識者（ウォーナー博士等）によつて戦禍を受けることなく保存され、守備された。しかるに不幸にして琉球王国時代の古都も戦場となり、首里城正殿その他の国宝指定の数々の文化財並みにこれに準ずる文化財もすべて焼失してしまった。そしてアメリカ軍進駐後は、首里王宮の位置にコンクリートの琉球大学校舎が次々に建てられ、戦後はじめて訪れた私は、この状況を見た、首里城正殿は復興し再建しなければならないか。さて、いかにしてこの問題を進めなければならないか。戦後二十六年、那

霸市及びその周辺の復興はすばらしく、近代的都市の造営は驚異的に進行しつつある。ところがかんぬきが一本ぬけいると思われるところは、戦前までその首里城は、うつそうとした樹林に囲まれ、幾重にも囲まれた城壁による水の良質の地下水があつたからである。この多量の地下水の確保は、尚巴志王の首里城造営に創まり、尚真王の中央集権と首里の都市計画時代に、さらく貯蔵された泉となつて流れ出していた。大中方面の高台地でも、三メートル位下には良質の地下水があつた。首里に古くから酒造業が栄えたのも、この象徴的設備によつてそこは水源地となり、龍潭の水は地下水となつて地面深く貯蔵されまた泉となつて流れ出していた。大中方面の高台地でも、三メートル位下には良質の地下水があつた。首里城正殿とは、その都市計画の上に建つていた琉球王国の象徴的代表建造物であつた。琉球王国は、十四世紀から十六世紀に至る頃に城壁を拡張し、また城外円覚寺、弁財天堂方面の谷を小ダム式に整備完成したと思われる。首里城正殿は、大陸明（みん）政府のひ護により東洋海域における商権国として、琉球貿易船は、南はマラッカ海峡方面では印度洋を制していたアラビア人（回教）（サラセン）に接し、北は日本海、瀬戸内海、伊勢湾方面にも進出していたといわれ、当時首里城白銀門内に多量の金銀を貯蔵しその財力によつて、さんごしよう上首里城正殿を中心とする高慶な文化的建造物が数多く造営された。これはギリシャにおいても財力によつて不毛の海岸岩石上に古典文化が花開いたことと同様に見られる。これは地球上において人類の到達した数少ない高い高度な文化的業績として賞賛され記念されなければならない。そして明治廃藩にいたるまでの琉球王国はその延長であつた。即ち、これが国際的文化的視野において、首里城正殿が復興され、再現されなければならぬとする根本的理由である。それと同時に首里城を緑化し出来うる限りこれを水源地化し、水道の水が不足する時があつても、地下水によつて那霸市だけでも自活して欲しいと思う。

首里城正殿修理の際の設計図は今も文部省文化庁に保存されている。これによつて元のままに再建することは可能である。ここに源武雄氏を委員長とする琉球政府文化財保護委員会はその実現に一步を進めている。今や本土復帰を記念して、これが平和を理想とする建造物として再建されるならば、本土はもとよりアメリカを初めとして世界各国の同志もこれに賛助するであろう。そしてこれはアジア平和の礎石となることを信ずるものである。



晩年の鎌倉芳太郎

